



8月21日、和歌山県立体育館で開かれた第8回全日本アンダージュニアボクシング王座決定戦。この大会は、県大会、各ブロック大会、東・西日本大会を勝ち抜いた選手が「真の日本一」を争うものです。紺野優空さんは、小学生男子43kg級の東日本代表として出場、西日本代表に見事勝利し、優勝しました。ボクシング日本一になった紺野さんを紹介します。



こんの ゆあ
紺野優空さん(長久保小6年)

第8回全日本アンダージュニアボクシング王座決定戦優勝

ボクシングは楽しい

小学1年生でキックボクシングジム、4年生でボクシングジムにも通い始めました。人見知りでもジムに慣れるまでに少し時間がかかったそうです。キックボクシングとは構えなどが違い、少し戸惑ったそうですが、そのセンスから、すぐにボクシングにも馴染みました。ボクシングジムにキッククラスは優空さん一人ですが、先輩方に、とてもかわいがってもらっているそうです。

現在、平日4日間は、キックとボクシングのジムで練習し技術を磨いています。また、土・日曜日は父の作ったトレーニングメニューで毎回7kmほどのランニングをこなすなど、強い体づくり、スタミナアップを図っています。練習やトレーニングはきついですが、「ボクシングは楽しい」と話してくれました。

王座決定戦で見た課題

県大会、関東大会、東日本大会と勝利を重ねてつかんだ王座決定戦への出場。厳しい練習の成果を発揮し、試合で勝利すると大きな自信になりました。特に関東大会の相手は強豪選手で、勝利したことで自信が確かなものになったそ

うです。

試合前、不安になることもあるそうですが、リングにあがったら「やるしかない」。この感覚はずっと変わらないそうです。近距離で打ち合えるのが持ち味で自分のスタイルだという優空さん。王座決定戦でも積極的に前に出て多彩なパンチを的確にヒットさせ、見事に勝利を収めました。

相手を圧倒する試合内容でしたが、優空さんは「中間距離でパンチをもらった」と反省し、体を動かし続けてパンチをかわすように改善することが今後の課題だと話してくれました。課題を克服し、インファイトとアウトボクシングの両方を身につけたいと、常に向上心を持って真摯にボクシングに取り組んでいます。

夢に向かって戦いは続く

今後の目標を聞くと、17歳でプロボクシングのライセンスを取得し、プロボクサーになることを目標としているそうです。最終的には自分の階級で最強のボクサーになること、プロボクシング主要4団体の統一王者を目指したいと答えてくれました。

たくさんの方の人の応援とともに自分の夢に向かって、優空さんの戦いは続きます。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、ふと頭をよぎることがあります。「もしも今、災害が起きたら」。災害は、「いつかどこかで起きるもの」ではなく、「今日私たちの住むまちで起きてもおかしくないもの」。自分の命、そして大切な人の命を守るために、私たち一人ひとりが知っておくべきこと、できることについて、考えてみませんか。ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ
✉10200001@city.tsurugashima.lg.jp



■10月号には、『赤い羽根共同募金啓発リーフレット』が折り込まれています。

